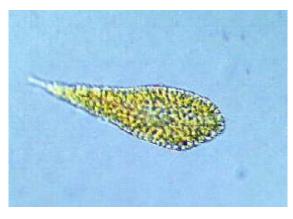
## シャットネラ アンティーカ

赤潮生物種 : *Chattonella antiqua* (HADA) ONO ラフィド藻綱ラフィドモナス目ヴァキュオラリア科





左•右:栄養細胞

大きさ : 長さ50~130  $\mu$  m, 幅30~50  $\mu$  m

細胞の形態・色:単細胞、後端が尾状に尖る紡錘形で、頭部は偏平。黄褐色。

遊泳:細胞先端よりやや後方の位置から2本の鞭毛が伸び,うち1本の遊泳鞭毛

を進行方向に伸ばし、ゆっくりと回転しながら泳ぐ。

類似種:シャットネラ マリーナと形態が似ており、本種の方が大型、扁平、尾部の

伸張で区別するが、環境や刺激等により容易に形態が変わり、小型化した

ものでは判別が困難になる。

赤潮発生時期:6月下旬~9月上旬

赤潮発生海域:八代海

出現環境:適水温・適塩分はそれぞれ23~26℃,30以下

被害:主にブリ、カンパチ。八代海ではたびたび漁業被害が発生し、特に2009年、

2010年には20億円を超える甚大な被害が出た。

特記事項:魚毒性はきわめて強く、最低致死細胞密度は30~50cells/ml。表層水温が

26℃を超えるあたりから、早朝は表層に日中は水深3~5m層に分布が偏る傾向があり、表層に分布が偏る時は、特に潮流(大潮)や風等による移

動が顕著である。

大潮終了後特に閉鎖性水域で細胞が残れば、小潮にかけてさらに細胞密

度が増加する場合が多い。

なお, 粘土散布はCochlodinium polykrikoidesの5倍前後の散布量が必要

である。